

茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第1回会議 概要

開催日時	平成27年6月19日（金） 13時15分～
開催場所	茂原市役所 5階 503会議室
出席者	推進会議委員14名 田中市長、事務局（岡澤企画財政部長、中村企画財政部次長、高橋企画政策課政策推進室長、深山企画政策課主査、吉野企画政策課主事） 株式会社ちばぎん総合研究所（小松調査部長、関調査部副部長、福田調査部主任研究員）
会議次第	1. 開会 2. 市長挨拶 3. 委嘱状交付 (1) 交付式 (2) 自己紹介 4. 座長選出 5. 案件 (1) まち・ひと・しごと創生の概要について (2) 推進会議の役割について (3) 報告事項 ① 総合戦略策定の基本方針の策定について ② 市民意識調査の実施について ③ 総合戦略策定部会の設置について 6. 講演「茂原地域の現状と発展方法」(株)ちばぎん総合研究所 7. 閉会
会議要旨	2. 市長挨拶
田中市長	本日は大変お忙しい中、本会議に出席賜り厚く御礼申し上げます。 皆様方には「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の委員にご就任いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より市政各

般にわたってご協力いただいておりますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ここにおられる皆様方につきましては、大変お忙しい立場であることは承知しながらも、現在本市で進めております総合戦略の策定のためにはどうしても必要となります、産・官・学・金・労の各専門分野の代表としてご協力願いたいと思います。

国の人口ビジョンでは、現在の人口減少は今後加速的に進み、このまま手を加えなければ、2060年までに日本の総人口は8,700万人まで減少するとしております。いま茂原の人口も9万1000人強ですけれども、これが2060年までに約7万から8万人になるということです。それは何としてでも食い止めたいという思いでございます。

それを施策を講じてなんとか2060年に1億人は確保しようというのが国の総合戦略となります。

どこの市町村でも同じですが、茂原市でもそれを指をくわえて待つだけでなく、既に市民アンケートの実施や、職員等で構成する庁内組織を整え、総合戦略の策定に向け取り組みを始めております。この総合戦略については、国が今年度に繰り越した予算300億円を活用したいという思いがありまして、10月までという短期間ではありますが、今後の茂原市に効果的な戦略の策定に向け、ここにいる皆さんの豊富な経験と知識や発想を取り込みながら、作業部会も一緒になって前に進めていきたいという思いであります。他市に負けない総合戦略を策定してまいりたいと思いますので、ご協力お願いいたします。

大変お忙しい立場であることは存じておりますが、重ねてご協力のほどをお願い申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

本日は本当にご苦勞様でございます。

3. 委嘱状交付

(1) 交付式

市長から各委員へ委嘱状を交付

(2) 自己紹介

各委員から自己紹介、事務局から市側の出席者紹介

4. 座長選出

座長に関谷昇氏が就任

5. 案件

(1) まち・ひと・しごと創生の概要について

事務局から資料に基づき説明

(2) 推進会議の役割について

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

座長

- 事務局からまち・ひと・しごと創生の概要について、国のまち・ひと・しごと創生法の考え方、それに基づいて都道府県、市町村でそれぞれ計画をどう作っていくか、その中身を議論していくのがこの会議の役割であるという説明をいただいた。
- ポイントとしては、人口はどんどん減っていき、少子高齢化がますます本格化していく中で、どうやって茂原市の人口を増やしていくか。とりわけ若者たちを増やしていくか。少し前に自治体消滅論という話を耳にしたことがあるかと思うが、20歳から40歳の女性とそのまちにどれだけ残るかということを中心として考えたときに、若い世代が減っていくということは、それだけそのまちに子どもが生まれにくいということで、まちの基礎体力を損なうことになる。そこを本格的に考えていかないと厳しい。これからは若者、子どもの分捕り合戦になっていくのではないかと見ている方々もいる。若い世代を増やしていくことをどう考えていくか、皆さんにも考えていただきたい。
- 総合戦略の中に、茂原としてこういう戦略でいくんだということが立てられるような議論をしていただきたい。
- 非常に長い不況が続いていく中で、国はアベノミクスを主軸とした経済戦略を立てているが、地方版は地方経済をどう考えていくか、地域ベースで考えてもらいたい。1つは地域経済の活性化。もう1つは若者が少なくなってしまうのは、雇用がないから。若者を増やしていくことと、地域産業の活性化は密接。主軸になっていく課題をどう考えていくか、細かい部分は作業部会で考えて、推進会議にあがってくるという流れになるという説明であったが、意見だけでなく、自分の立場から提案をしていただきたい。事務局からの説明についてご質問、ご意見等あれば発言していただきたい。

委員

- 何事をするにも、わたしは民間の出身なのでどうしてもお金の話になるが、ひと・もの・かねで、作業を実際やるとなるとお金がかかるが、費用的なバックアップは計算されているのか。

事務局

- 平成26年度に地方創生に対して1,700億円が国からきた。平成2

8年から総合戦略については新型交付金があり、新たな交付金が出ることになっている。その金額については議論になっている。今の段階ではだいたい同じ規模の金額が平成28年から31年まで続けてくると聞いている。ただお金の話は国からは示されておらず、いま言えるのは、新型交付金ははっきりしていない。

- 市としては、これだけの戦略を作る中で、多少なりともバックアップが必要になる。いままではある予算の中で計画を作るということであったが、総合戦略を作るのであれば、資金を確保した中で進めないと机上の空論になってしまう。お金の件については、はっきりし次第、皆さんにご説明したいと思う。
- 委員 聞き間違いかもしれないが、1,700億円と言ったが、市の予算は300億円。そのバランスがピンとこないが。
- 事務局 平成26年度に国が補正予算を編成し、その予算額が合計で1,700億円である。これは国の話であり、そのうち1,300億円が既に執行され、茂原市も配分を受けている。それが茂原市ベースで5,600万円程度である。これが平成28年度以降一定の目安になるのかと思うが、交付金の制度設計というのは、6月を目処に策定すると国は話しているので、まだ不透明な部分がある。
- 委員 1,700億円がどうなるかわからないが、毎年その程度の金額が来るとして、茂原市に5,600万円程度もらえるというのを頭に描いて実行していくということか。
- 事務局 財政面の支援もセットとして、国からそのくらいの金額の財源的な支援を念頭に置きながら戦略を作っていくとは思いますが、それに限らず当然必要な財源を確保しつつ事業を実施していかなければならないと考えている。
- 座長 行政財源ということではいま話があり、国から茂原市に一定のお金がきて、それをどう計画のもとに使っていくかということがまず1つ。今後どういうかたちで配分されていくかはまだ見通しが立っていないということで、暗中模索の中であるということ。また、地方創生でいうと、行政レベルでのお金と、地域の中で動くお金というのがある。両方を見る必要があり、茂原市で物を買うということも含めたお金の流れというのも非常に大事な流れであるという視点も持っていただきたい。
- 委員 2060年に国の人口を1億人以上に持っていきたいという目標で、出生率を上げたり、健康で死亡率を下げるのが考えられるが、それぞれの項目において数値目標があればおしえていただきたい。
- 事務局 いろんな種類の戦略が考えられるが、それぞれに成果指標を設定する。ただし、それが全て人口に結びつくわけではない。単純にこの戦略を実行するとこれだけ良くなるという数値目標であり、最終的には人口に結びつくという作りになる。

- 委員
- 問題は県も同時進行。要は茂原市だけで済む問題ではない。県もあり、国もある。三位一体の進行が足並みが揃ってうまくいくものだと思う。茂原市のまちづくりをやっているが、残念ながら県と我々の足並みがかなりずれている。赤目川は県の川であり、乗川は市の川であるが、この改良が10年かかっているが進んでおらず、足並みが揃わない。本件についても、県の進行状況、茂原市の進行状況が常にガラス張りのように見えるようにしていただきたい。
- 事務局
- 戦略を作る際に、茂原市だけで済まないことが出てくると思われる。例えば、茂原駅の利用者は周辺市町村の住民でもある。また、医療関係であれば、広域市町村圏組合が圏域をまとめている。それを茂原市だけでまとめることは出来ない。広域連携でまとめた計画を作る体制を県と組んでいる。茂原市で周辺町村と連携した方が良いという話が出れば、県でまとめてくれる体制ではある。
- 座長
- 広域連携というのは特に行政では非常に難しい課題であり、実際人口を増やし、人の動きをつくり、産業の活性化を茂原市の中で自己完結することはどこまでできるか。逆に広域的な広がりの中で茂原市にとってプラスになることをどう考えるか。そういう方向で考えていくことになる。
 - 住むところと働くところを近づけようという考え方がかなり出てきている。茂原市に住んでもらい近隣に勤める。逆に、近隣に住んで茂原市に働きに来てもらう。色々な可能性がある中で、茂原市はどう考えるか。
- 委員
- 生まれたときからずっと茂原市に住んでいるが、私が中学生高校生のときは日立や三井東圧があり、社宅もあった。その後企業を誘致したり、そごうができたが、みんな撤退している。茂原市に来るメリットやデメリットがあると思うが、いまは完全にデメリットの方が多いので撤退してしまうのではないか。沢井製薬はよく来てくれたと思うが、メリットデメリットを考えなくてはいけない。また、圏央道ができて、楽しみにしていたが、1車線ではどうかと思う。自分は木更津やいろんなどころに買い物に行くようになった。茂原市で買い物するのではなく、私のように外へ買い物に行くようになる人が増えるのではないか。
 - 若者という話では、長生高校でも若い教員が3組結婚するが、茂原市には家を建てず、千葉市に家を建てる。なぜかという、千葉市の方が子育てしやすいからと言っていた。例えば、子育て千葉県1を目指すとか、そういったことをしないといけない。
 - 先程消滅論の話があったが、読んだ本に、活性化させるには住民がまちに対してどれだけ誇りを持てるかだと書いてあった。天然ガスもあり、ヨードは世界一であるが、茂原市民はどれだけ茂原市に誇りをもてるか。そういったところを考えていくべきである。

事務局

- 大変良い意見をいただいたが、市長は企業誘致についてはトップセールスするなど非常に熱心であり、いろんなところに直に出向いている。市長が常々言うのは、茂原市の地理に問題があり、平成25年に大きな被害が出たが、企業誘致をする際に水害の問題がある。また別の問題ではあるが、工業用水路がなかなかこちらまで来ないので、水をたくさん使う企業は誘致できない。また、優秀な方を呼んでくるには、教育施設や医療施設がないということで、家族ではなかなか住みづらい。
- 圏央道についても、2車線化の要望はしているが、想定以上に台数が通らないと難しい面があり、圏央道という優位性があっても活かされていない。
- 鉄道についても、内房は高速道路と繋がっており、木更津などは対岸まで高速バスで行けるため、JRでは特急を減らしてきている。外房線にもその波が波及されてきている。外房地区が取り残されたような状況になっている。
- 総合戦略を立てていく中で、現状を振り返っていただき、茂原の特性を活かした戦略を立ててまいりたい。

座長

- いま置かれている状況もあり、茂原市が地理的にプラスになる部分とマイナスになる部分がある。圏央道ひとつにとっても、諸刃の剣的なところがある。うまくいけば人や物を運べるが、逆に出て行ってしまうこともある中で、茂原市にどう人を巻き込んでいくか。魅力や価値として形にしていけるかが課題である。

委員

- 地理的な話があったが、茂原は逆に良い条件だと思う。全国で考えたら、それほどアクセスは悪くないので本質的な問題ではないのではないかな。山形でも立派にやっているところもある。それを考えたら、茂原は恵まれていると思う。

委員

- 会の進行として、もう具体的な話に入っていくというかたちなのか。案件(1)(2)についての質問という話であったと思うが、どんどん具体的な話になっていくので確認したい。

事務局

- 概要の説明の中で、アンケートの話をしたが、これからアンケートの結果が出てくる。市内外の意見など、色々な人の客観的な意見を取り入れ、その中で茂原市の強み弱みを見出し、総合戦略の策定を進めていきたい。

座長

- 今日は概要と今後の会議の役割を確認するということを中心に話をされていて、その範囲での質問・意見をお願いしたい。
- 具体的には事務局から説明があったが、今後の作業部会の進展と、残り3回の推進会議があり、会議以外でも意見があれば連絡いただき、進めていきたいという話である。

(3) 報告事項

① 総合戦略策定の基本方針の策定について

② 市民意識調査の実施について

③ 総合戦略策定部会の設置について

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

座長

- 事務局からの報告事項3つについて説明いただいた。不明な点やわかりづらい点があれば質問をお願いしたい。
- 今年度中に総合戦略を策定すればよいということであるが、茂原市としては上乗せ交付金を獲得したいため、日程的に厳しいが、10月末までに目処をつけたいということである。

事務局

- 時間も限られているので、不明な点があれば遠慮なく事務局に連絡いただき、個別に対応していきたい。

座長

- 作業部会は3部会体制となっているが、例えば人口を増やしていくという戦略の場合、おそらく内容が3つの部会に跨ると思うが、3部会の連携性についてはどう考えているか。

事務局

- 作業部会を毎週開催していくが、毎回独自の開催ではなく、時々合同の開催を考えている。その中で、3部会の意見を発表し合い、掛け合わせ、より強い戦略にしていきたい。
- 「総合戦略の作り方」の資料を見ていただくと、イメージが掴めると思う。

座長

- 本格的な議論は次回からということになるが、今日は今後の方針、進め方、いまどんな動きが進んでいるかを確認していただいた。

6. 講演「茂原地域の現状と発展方法」

株式会社ちばぎん総合研究所 小松部長

【次回以降の会議の開催について】

事務局

第2回 7月16日(木) 午後2時から
第3回 8月19日(水) 午後2時から
場所は決まり次第連絡する。

- ちばぎん総研の講演を聞き、イメージができてきたと思うので、意見等があれば事務局に連絡いただきたい。

- メールでのやりとりを希望の場合は政策推進室にメールいただきたい。
- 今日はちばぎん総研小松部長より講演いただいたが、委員の皆さんの力を借り、総合戦略を作っていきたい。長時間に渡りありがとうございました。これで本日の会議を終了とする。お疲れさまでした。

以 上